

2022年(令和4年)11月27日(日曜日)

ユネスコ活動報告

〜室蘭でユースフォーラム〜

初のワークショップも

室蘭ユネスコ協会(立野 種子業)に取組んでいる室蘭子会長)主催の「ユネスコ・ユースフォーラム2022 in 室蘭」が26日、室蘭市八丁平の大谷室蘭高校で開かれた。ユネスコ(国連教育科学文化機関)の各



種事業に取り組んでいる室蘭、登別の高校生らが活動報告やワークショップを行い、交流を深めた。3年ぶりの開催。新型コロナウイルス感染症防止対策で一般参加や音楽発表は見送り、同協会と来賓、ユネスコスクール清泉幼稚園(祝津町)、海星学院高(高砂町)、登別明日中等教育学校(登別市)と、ユネスコ協力校の

ワークショップに参加したユネスコ活動者たち

大谷室蘭高の関係者約50人が参加した。

四つのユネスコ機関が活動を報告。海星学院高の福島愛華さん(1年)は8月に日本ユネスコ協会連盟の高校生カンボジアオンラインスタディーツアーに参加したことを発表した。

貧困で学校に通えない現地の子どもたちにとって、寺子屋がセーフティネットになっていることを紹介し、支援金の一つとなる書き損じはがきの募集を呼びかけるリーフレットを作成したことを報告。来賓で室蘭市教育委員会の伊藤博明教育長に手渡した。

続いて、参加者が4班に分かれて「ユネスコ活動ってどんなこと」をテーマにワークショップを行った。実際に行われている活動について調べ、自分がやってみたい活動を話し合い、発表した。

立野会長は「ワークショップは初めて行ったが、協会と四つのユネスコ機関と一緒に活動について考えることができ、画期的な取り組みになった」と話していた。(奥野浩章)